The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	文化的都市施設の認識構造に関する基礎的研究
Author(s)	金, 明錫
Citation	大阪大学, 1985, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/34684
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

【20】

氏名・（本籍）	金（きむ）　明錫（みょんそく）
学位の種類	工　学　博　士
学位記番号	第　6872　号
学位授与の日付	昭和60年3月25日
学位授与の要件	工学研究科　環境工学 学位規則第5条第1項該当
学位論文題目	**文化的都市施設の認識構造に関する基礎的研究**
論文審査委員	（主査） 教　授　上田　篤 教　授　末石冨太郎　教　授　岡田　光正

論文内容の要旨

本論文は，都市住民の多面的な「文化要求」を考慮した諸都市施設，特に文化関連施設の整備の指標を探るとともに，新しい都市生活様式に応じた文化空間のあり方を展望することを目的として，諸都市施設に対する人々のイメージ評価構造の折出，諸都市施設に対する文化的考え方と利用傾向の分析，将来新しい文化概念の下に育つ可能性のある施設群の探索，新しい文化コンセプトの抽出などの研究を行なったもので，序章，本文7章，結章から構成されている。

序章では，本研究の背景，目的，方法などについて述べている。

第1章では，都市と都市施設の概観，都市の文化と文化施設の定義およびその体系について概説し，その認識構造に関する既存研究の現況を把握している。

第2章では，文化施設に対する考え方，利用傾向について，大学生，一般人，外国人留学生および大学客員研究員を対象として予備実験を行ない，文化施設の属性を分析している。

第3章では，前章の結果を基に，大阪大学環境工学科の学部学生および大学院生を被験者とする都市施設に対するイメージ調査を行ない，都市施設の考え方や利用傾向についてクラスタ分析を行ない，諸都市施設イメージ評価構造を抽出している。

第4章では，文化施設の考え方による各クラスタ別の因子分析の結果を用いて各クラスタを比較，考察し，その評価因子構造を明らかにしている。

第5章では，諸都市施設の利用傾向による各クラスタ別の因子分析の結果を用いて各クラスタを比較・考察し，その評価因子構造及び利用度と評価因子との関連を明らかにしている。

第6章では，諸都市施設の中で，文化施設としての概念がはっきりしていない施設群を中心に，その

属性及び内容を考察し，新しい文化コンセプトの抽出をこころみている。

第７章では，前章の仮説に基づいて，文化的都市施設と把えられた書店，画廊を例にとって，その実証的考察をおこなっている。

結章では，前章までの分析・考察をもとに，この論文を総括するほか，また，新たな文化的都市施設の発生概念を考慮した都市の文化環境整備の方向を展望し，今後の課題を提出している。

論文の審査結果の要旨

本論文は，都市住民の文化に対する要求の増大とその多様化に伴い，都市の新しい文化施設像を探るために住民の意識調査，面接調査等を行ない，利用者の心理的側面から文化関連施設の認識構造に関する基礎的研究結果をまとめたもので，その主要な成果を要約すると，次のとおりである。

(1) さまざまな都市施設の文化的イメージに関しアンケート調査を行なった結果，大筋において利用者の傾向は一致し，職業および年令による差はあまりみられないことを明らかにしている。

(2) つづいて都市施設に関する評価構造をＳＤ法によって分析し，親近性，格調性，利便性，活動性，現代性，規模性の６つの主要な因子によって構成できることを見出している。

(3) さらに，それらの都市施設の文化施設としての適合性に関するクラスタ分析を行ない，文化施設としての既成概念ができている施設群，文化施設とはいえない施設群およびそれらの概念がはっきりしていない施設群の３つの類型に整理している。

(4) そのうち文化施設としての認識がはっきりしていない施設群のいくつかのものについて６軸因子得点プロフィールを用いて文化施設との関連を調べた結果，親近性，利便性等の因子について高い得点を示し，得点の低い格調性等について改善されれば，将来文化施設として育ってゆく可能性のあることを個人面接調査等を補完しながら実証している。

(5) また文化活動の内容を学術，芸術芸能，コミュニティー，スポーツ，休息の５つのジャンルに分け，それぞれについて文化施設と文化都市施設との関係を考察し，人々の文化に対する要求は，中核的な文化施設だけでは満足できず，人々が積極的に参加し利用できる身近な文化環境を求めていることを明らかにしている。そして，今後の文化施設の計画においては，多様化する人々の文化施設要求を満足させるネットワークが必要であることを結論づけている。

以上のように，本論文は文化的都市施設の認識構造に関する基礎的諸問題を解明し，都市の文化環境に関する多くの知見を得たばかりでなく，将来の都市開発の方向を示唆するものであり，環境計画学上寄与するところが大きい。よって本論文は博士論文として価値あるものと認める。